

一手になる気



囲碁棋士

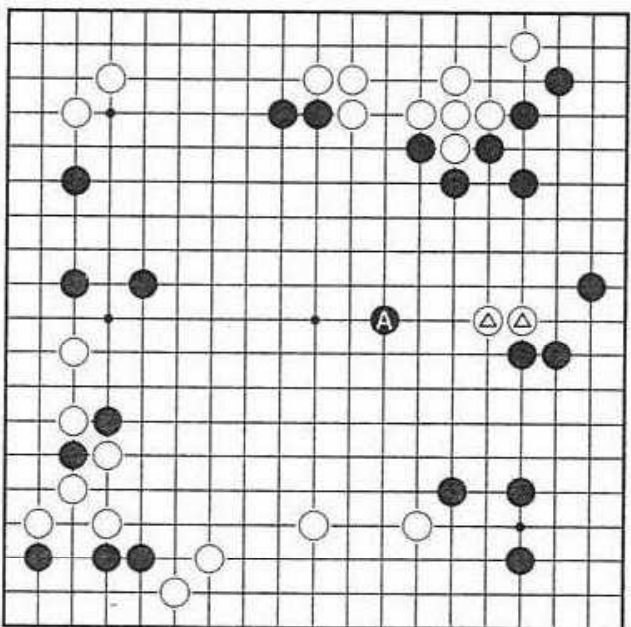
青葉かおり

アメリカのノースカロライナ州はのどかなところ。家の前には一面に緑が広がり、木々が生い茂っています。色とりどりの花も咲き乱れ、その中を鹿や野ウサギ、リス達が駆け抜けます。

「ふー、ここは天国だがね」

毎日、一方的に鹿とおしゃべりしていましたが、ふと自分の職業を思い出し、近くの大学へ囲碁普及に出かけることにしました。

家から車で20分ほど走ると、大学の立派な建物がみえてきました。その駐車場に車を止めて中に入ると、敷地が広すぎて迷子に。2時間彷徨って、ようやく辿り着いた大学の事務局らしきところで、



「たのもー、囲碁を教えたいんだがね」

と（一応、英語で）言うと、女性事務員の方が、

「Oh! Welcome!」

と、フレンドリーに対応してくれました。

しかし、喜んだのもつかの間、それ以降は彼女の英語が早すぎて殆ど聞き取れません。非常に困った私は、「Oh!」とか、「Ah-、Ha-」とか、英語っぽいと思われる相づちを打ち続けました。

何か質問を受ける度に、焦って顔が強ばりましたが、最後には彼女と握手して笑顔でお別れ。

「ふー、何とか終わったぎゃ」

一仕事終えた充実感で一杯の私。ところで、私は何のために大学に来たんだったきゃ？

図は今期の阿含桐山杯全日本早碁オープン戦予選から。黒が中園清三アマ、白が春山勇九段の対局です。この棋戦はプロだけでなく、全国大会などで好成績を挙げたアマチュアの方も参加できます。今、黒Aと打ち、白△の2子を包囲にかかりました。右辺は真っ黒ですが、△の白2子のシノギ方を考えてみて下さい。